高津区おはなしアーカイブ

●森 雪子（もり ゆきこ）さん
昭和８年生まれ　８３歳
川崎市高津区久末在住

◆ご家族のお話を

私の実家は、嫁ぎ先から近くです。父は農業をしていました。湧き水が豊かに出ていたので、お米は美味しかったですよ。私自身、３０年前まで田んぼを作っていました。久末では最後の方まで耕作していたと記憶しています。

私は４人兄弟でしたが、兄が戦争で帰らぬ人となり、姉が嫁いだ後、間もなく母が倒れその日のうちに急死。父と弟と私の三人暮らしになり、私は家事と畑仕事に追われた十代を過ごしました。

弟は、私より二歳年下です。私を安心させるため、私より一年早く、２１歳で結婚し農業を頑張って家を支えてくれました。今もお互い元気でおり、仲のよい姉弟です。

◆子どもの頃の思い出は

子どもの頃の思い出といえば、遊びや食べ物、学校のことです。

遊びは、石蹴り、お手玉、羽根つき、おはじきをしました。お手玉は洋服の余り布を使って自分で作りましたね。私はお手玉を四個同時につけました。男の子は、竹馬。高い竹馬を自分で作って、乗っていました。

私たちの時代は、身の回りにあるもので工夫し自分で作って、体を動かして遊んでいましたよ。

おやつはべったら焼き（小麦粉と水を混ぜたタネをフライパンで焼き、焼き立てに醤油と砂糖を合わせたタレを塗って食べるもの）、かたもち（もちを薄く切って乾燥させ、油で揚げたり焼いたりして、醤油をかけた煎餅）、さつまいも、焼き餅が中心でした。

年末にもちをつきましたが、「寒餅（かんもち）」といって２月にも６０キロ位つきました。保存するため水につけておくのですが、臭くなるので時々水を交換しなくてはならなくてね。それがとても大変でした。寒餅は春から夏の間の農作業の合間のおやつとして食べました。

当時の食事は、主食のご飯は米と麦が同量のものに、御新香、味噌汁、野菜の煮物でした。肉や魚はほとんど食べられず、お祭りに親戚がいらしたときにカツオの煮物を食べるくらいでした。卵は貴重品でしたが、鶏を５，６羽飼っていたので時々食べ

ることができました。お弁当はいつも日の丸弁当でした。

鳥は放し飼いです。鳥小屋が無かったので、家の中の台所の高いところに巣を作って、夜になるとそこに止まっていました。朝早くから時を告げるかのように鳴いていましたのを覚えています。

米や麦を収穫し、庭に広げて干しておくと放し飼いの鶏がやってきて、足でかき回しながら食べてしまうので、背負い籠を被せて鶏を中に入れておいたものです。

久末でも豚を育てている家が結構ありました。餌は南瓜のうらなり、野菜のくず、残飯等です。わが家は、昭和３０年頃まで役牛（えきぎゅう）といって田んぼを耕したり、荷車を引く働き手の牛がいました。

私は１０代半ばで母が亡くなりましたので、娘時代から芋ほり、田植え、稲刈りをしました。祖母が生きていた頃、稲刈り後の田んぼでタニシやイナゴを捕まえると、祖母が佃煮を作ってくれたのを覚えています。

◆小学校時代と戦争の記憶

小学校は橘尋常小学校に通いました。現在の橘小学校です。当時は小学校に通うのは自由だったので、学校なんて行かないで家の仕事をせよなんてという風潮も残っていましたね。

私は橘小に通学していましたが、一学年下は野川小に通っていました。終戦になり、野川小にも初めて高等科が新設されたのですが、人数が足らず、私達の学年の久末児童は野川小に移りました。私たちの学年は戦前の学校制度である高等科最後の卒業生なんですよ。一学年下からは、新制中学の第一期生となったのです。

小学校は、各学年一クラス４０名前後でした。学年全体で６０名を超えると２クラスできました。戦争中、疎開の児童が増え、一度だけ男女別々のクラスができました。橘小に体育館はなく、卒業式は３つの教室の仕切りの戸をはずし、広くして行いました。

授業がない祝日は、学校に集合し全校児童で祝いを述べ合い、「君が代」を合唱したものです。当時の祝日は、元旦、２月１１日紀元節（建国記念の日）、４月２９日天皇節（昭和天皇誕生日、現昭和の日）、１１月３日明治節（明治天皇誕生日、現文化の日）を覚えています。

戦争中、私の一学年上の生徒から工場へ働きに行き、飛行機の部品を作ったそうです。

私たちは学校に通いましたが、授業どころではありませんでした。菰編み（こもあみ）といって、麦わらを使い、俵のような厚さに編み、畳の代用品作りをしました。菰は昭和２０年３月の東京大空襲で家を焼かれ、バラック小屋で暮らしている人々の敷物として使われました。麦わらが取れるのは６月から７月頃でした。

学校へ行っても、空襲警報がなると下校。先生に菰を持ち帰り、家で編んでくるよう指導されていました。出来上がると再び背負って学校に持参。教室に私たちが作った菰が５枚１組に束ねて積み上げてありました。

校舎は兵隊さんの校舎になり、鉄兜や銃が壁にかけてありました。軍隊の人達を教室で見かけたときもあります。

戦争が終わった昭和２０年９月から、やっとゆっくり勉強することができるようになったのです。

昭和２０年４月１５日のことは、決して忘れられません。川崎が攻撃された日です。久末にも空襲警報が出され、私は実家の奥深い防空壕に避難しました。爆撃の音が激しく、生きた心地がしませんでした。

警報が解除され、外に出てみると、激しく燃え盛る炎と煙が空に舞い上がっている光景が目の前に広がっていました。久末の蓮花寺の近くの農家が４件も焼けてしまいました。

本当に空襲は恐ろしかったです。

被害の大きかった東京や横浜の人達はどんな気持ちでいられるのだろうと思いました。

◆当時の服装は

子どもの頃の服装は、ほとんどの子どもが洋服でした。私は、７歳年上の姉が洋裁が得意で、よく洋服を作ってくれました。

戦時中の履物は、駒下駄・わら草履です。時々、学校からズック靴が配給されましたが、数が足りないので、くじ引きで当たった人だけが買うことができました。

衣類の買い物は、現在もある千年の森田や呉服店や溝口駅周辺でした。

私が高等科１年のとき、終戦になりました。戦争中でしたから、６年生の修学旅行はありませんでした。

戦後になると、教育内容が大きく変わり、教科書がわら半紙の薄い本に変わったことを覚えています。

終戦の翌年、高等科２年のときから給食が始まりました。地域の方々が野菜を出してくださり、時々ですが野菜と缶詰の鮭が入ったスープが出ました。私の姑さんも、息子たちのために野菜をリアカーで学校に寄付したと話していました。

◆まちの様子が大きく変わった

久末の周辺が、田んぼが埋められ宅地に変わっていったのは、昭和３０年頃からです。

第三京浜を建設するために出た残土を処理するため、川崎市が田んぼを地主から買い上げ、埋め立てられたのです。そこに、平屋建ての市営住宅が建設され、五反田橋周辺から谷中まで住宅ができました。

住宅が増えるにつれ、人口が増加。マンションが建設されていきました。田園風景の久末村は、宅地開発と共に変化して行き、

今では昔の面影は、久末小周辺を残すのみになりました。

人口増加につれ、小学校も増えました。

私には三人の息子がいますが、住所は一度も変わっていないのに、長男は野川小学校、次男は子母口小学校、三男は久末小学校に、とみな違う学校に通ったんですよ。

交通機関は、私の小さい頃は時々綱島と溝口間を走るバスを見るくらいでした。

戦後、小杉から道中坂行きのバスが走るようになり、やっと便利になりました。

当時のバスは木炭バスで、坂のきつい農満寺のバス停あたりになると、乗客がバスを降りて、バスを押し上げる光景を見たことがあります。

◆若い頃の楽しみは

神社のお祭りは、村芝居が面白かったです。村人がちょんまげをつけて踊ったり、旅芸人のまねをしたり、青年団の人たちが芝居をしたりしました。時にはプロの方が来たこともありました。

私の若い頃は、青年団の活動が盛んでした。昼間は農作業に精を出し、夜になると、神社の集会所に集まり、昼間の疲れを忘れて卓球、フォークダンス、スクエアダンスを楽しみました。私が二十歳頃のときでした。他に娯楽もありませんでしたから、本当に楽しかったです。

盆踊りは私の子ども時代にはありませんでした。息子たちの時代から青年団が中心で盛んになり、現代は町内会主催で盛大に開催されています。

◆久末の地と共に

地主が大切な畑を出し合い、久末の高台の畑の真ん中に、昭和４４年久末小ができました。見晴らしが大変に素晴らしいところです。新宿、東京タワー、スカイツリー、武蔵小杉のタワーマンション群、大山連峰、富士山まで見られます。畑と住宅、自然と街が見渡せるので市内各地の小学生を乗せたバスが、社会見学として久末小の屋上に上がるため、何度もやってくるようになりました。

高台にある私の畑から見渡す景色は、本当に素晴らしいですよ。毎日通う畑の周辺には、高い建物が全く無いので、広い畑と大きな空が広がっています。地平線にある羽田空港に向かって飛ぶ白く輝く飛行機、青空に長く伸びる飛行機雲。大都会の景色、手塩にかけた野菜が一面に広がる光景は、私の自慢です。

畑仕事が終わる頃、夕焼け空と都会の夜景の美しさに癒されながら一日が終わる毎日。

元気に畑仕事ができることが私にとって本当に幸せなのです。

（平成２８年１０月３日取材）